

草木も人もみなねむりにおちて

今年もレントの時期がやってまいりました。レントとは、「受難節」と日本語では呼ばれますが、キリストの復活を記念するイースターの前の40日間を言います。この時期は、イエス・キリストの十字架の贖いを覚え、悔い改めの時期として祈ります。

この曲は、ヨハン・セバスチャン・バッハによって作曲されました。

「草木も人もねむりにおちて」この曲から導き出される場面としてつぎのような聖書箇所があります。

新共同訳聖書 マタイによる福音書26章36～45節

くそれから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという所に来て、「わたしが向こうへ行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。ペトロおよびゼベダイの子二人を伴われたが、その時悲しみもだえ始められた。そして、彼らに言われた。

「私は死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、私の願いどおりではなく、御心のままに。」それから弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。

「あなたがたはこのように、わずか一時（いっとき）もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」更に、二度目に向こうへ行って祈られた。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心（みこころ）が行われますように。」再び戻ってご覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠ったのである。そこで、彼らを離れ、また向こうへ行って、三度目も同じ言葉で祈られた。それから、弟子たちのところへ戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。>

この曲を奏樂しながら、私はイエス様がゲツセマネの園で父なる神と祈りによって対話している様子が想起されました。静かな時間の中に、弟子たちは眠りにおちています。それとは対照的に、祈りと求めを父なる神に強く訴えているイエス様の姿、父なる神は罪の贖いの成就のために静かに、そして沈黙の中にその時を刻んでいきます。目を覚ましていたかった弟子たち、けれども私たちも「心は燃えていても、肉体は弱い」、その通りになってしまうのです。

イエス様の十字架の罪の贖いによって、私たちは生かされています。このことを記念して私たちはこのレントの時期を、イエス様の受難を覚え、悔い改めの時期を過ごすのです。